令和5年度農林水産省調達改善計画の上半期自己評価（概要）

1. 重点的な取組

(1) 一者応札（応募）の改善について

- ① 国有林野の管理運営について、他の調達分野に比べ、一者応札の割合が高いことから、一者応札の改善に向けた取組として、役務調達のうち造林・素材生産事業の分野において、競争性向上のため、電子入札を検討・実施し、一者応札が改善された（前年度1者応札案件435件中215件改善）。
- ② 競争性を向上させるため、令和6年度契約に向けた「発注予定業務事前説明会」を、業務内容や今後の発注スケジュールがより詳細となる下半期に開催する。

2. 共通的な取組

(1) 調達改善に向けた審査・管理の充実

一者応札となった案件について、以下の取組を実施した。

- ① 発注部局において事業者に対してアンケート調査等を実施し、次回の調達に向けての改善策の検討を行った（実績1,345件）。
- ② 会計担当職員によって構成される入札・契約手続審査委員会において事前審査を実施し改善策が反映されているかの確認等を行った（実績964件）。
- ③ 外部委員により構成される入札等監視委員会において、次回の調達に向けての改善策等について審議を行った（実績177件）。

(2) 調達事務のデジタル化の推進

地方農政局等会計課長等会議及び事務連絡により、以下について周知し、契約案件4,217件のうち3,737件（89%（前年度77%））において電子調達システムによる応札を可能とした。

- ・電子調達システムを利用していない官署への導入促進
- ・電子調達システムの導入、電子契約の利用促進等の声かけなど、事業者側への普及啓発について協力依頼
- ・省内の優良事例を共有
- ・内閣官房行政改革推進本部事務局主催の電子調達システム勉強会資料、政府調達（公共事業を除く）手続の電子化推進省庁連絡会議専門部会及びシステム設計WG資料の周知

3. その他の取組

従来から継続的に取り組んできた事務用物品等の調達や、情報システムに係る調達の見直し等については令和5年度上半期においても引き続き取組を実施した。